①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・公式を用いて三角形，長方形，平行四辺形の面積を求めることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・三角形や平行四辺形の面積を求める場面で，分割したり，倍積変形や等積変形したりして，長方形や三角形に直す学習をしている。

教材研究ノート№5-B-9

≪学習問題≫

右のようなひし形の面積を求めよう。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

・

5㎝

⑥定着･活用問題

(1)右の図のように半径5㎝の円にぴったり

入る正方形の面積を求めなさい。

(2)面積が24㎝2になるひし形と三角形を

かきましょう。

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・ひし形の面積は，分けたりして移動したりして長方形や三角形に直せば，公式を使って求められる。

・ひし形の面積は，2本の対角線の長さがわかれば求められる。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し：辺が斜めになっていて，平行四辺形の公式が使えない。

　　　→長方形や三角形にすれば，公式が使える。

②学習課題：分けたり移動したりして長方形や三角形に直して，　　ひし形の面積の求め方を説明しよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：長方形や三角形に直して追究し，説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることは何だろうか？」

→「ひし形がぴったり入る長方形の面積の半分になっている。」「ひし形の面積を求めるために2本の対角線を使っている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「ひし形は，ひし形がぴったり入る長方形にぴったり入る三角形の面積と同じといってよいか。」

→「等積変形をすると，2本の対角線を底辺と高さとする三角形になる。」

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・共同追究の場面では，ひし形の面積を求めるために使った長さを，図と式を関連付けて確認する中で，もとにした三角形や長方形が見えるようにしたい。

・三角形や長方形など，既習の求積可能な図形の面積の求め方をもとに面積の求め方を考えたり，公式をつくり出したりしていく過程を大切にしたい。

【板書計画】